

たかすっ子

学校だより 第6号
令和3年10月1日発行
千葉市立高洲第四小学校

子供の心に火をともし

校長 渡辺 基博

「校長先生、たくさん、実がついているよ！」と私の方に笑顔で持ってくる2年生。4か月前、四小の田に植えた苗も大きく育ち、黄金色の稲穂が垂れ下がってきたので、2年生と5年生を中心に収穫をしました。今年は、梅雨明けが遅く、また、9月初旬は日照時間が少なく、寒い日も続いたことで成長を心配していましたが、病気にもならず無事に収穫することができました。収穫した稲は体育館のギャラリーの手摺に干し、乾燥させたのち、脱穀をする予定です。今年はどれくらいの収穫量になるか、今から楽しみです。



さて、夕方6時を過ぎても明るかった夏休み明けからひと月。今では、5時半を過ぎるとすっかり暗くなります。登校途中で見つけた花や葉などを大切に持ってくる低学年の子供が、最近、赤や黄色に染まった葉やどんぐりを持ってくるようになりました。「きれいなものだけを選んで持ってきているの。」と様々な色の葉や大きさの違うどんぐりを得意げに見せてくれます。子供も季節が変わってきていることを実感しているようです。

『はらぺこあおむし』で有名な絵本作家のエリック・カールさんが、今年の5月、91歳の生涯を閉じましたが、色鮮やかな絵本の中には、ページをめくるたびにわくわくするさまざまな仕掛けが取り入れられています。9月の図書だよりでも紹介した「パパ、お月さまとって！」は、私が教員になった頃に出会った絵本で、読み進めると、ページを広げることができ、そこから長いはしごや大きな月が現れるというアイデアや読み終えた時の父親の愛情に感銘を受け、この時期、よく読み聞かせをしてきた一冊です。そのエリック・カールさんが今から20年ほど前、自分の仕事場に子供を招き、一緒に絵本作りを行った「未来への教室」という番組が先日再放送されていました。子供の自由奔放な発想をふんだんに取り入れた活動、絵の見方や自然界にある色の質感等、視点を変えてじっくり見ることの大切さに気付く活動をとおり、子供たちの心は刺激され、新しい発見、様々な発想が生まれていました。

秋は、「スポーツの秋」「芸術の秋」「読書の秋」…と言われるように、過ごしやすさから物事を集中して行うのに最適な季節です。また、今月は前期が終了し、後期のスタートとなる節目の月でもあります。「よい教師は、子供の心に火をともし」と言われています。この季節、新たな気持ちでスタートする子供たちに、やる気を与える言葉かけ、好奇心を刺激するような活動の展開から、子供の心に火をともしたいと思っています。そのためにも、学校が活動の目的や内容を示し、家庭、地域と連携をしながら進めることが大切であると考えています。後期も引き続き、ご理解・ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。